

兵庫県の山崎断層帯安富断層における断層破碎帯と変動地形の関係 Relationship of fracture zone and tectonic landform in the Yasutomi fault of the Yamasaki fault zone, in southwest Japan

黒澤 英樹^{1*}, 瀬崎 章太郎², 小坂 英輝², 内田 淳一³, 道口陽子³, 堤英明³

KUROSAWA, Hideki^{1*}, Shotaro Sezaki², KOSAKA, Hideki², Jun-ichi Uchida³, Yoko Michiguchi³, Hideaki Tsutsumi³

¹ 応用地質株式会社, ² 株式会社環境地質, ³ 独立行政法人原子力安全基盤機構

¹Oyo. Co., ²Kankyo Chishitsu Co.,Ltd, ³JNES

山崎断層帯は、その最新活動時期の違いから大原断層、土万断層、安富断層及び暮坂峠断層から構成される北西部と、琵琶甲断層及び三木断層から構成される南東部に区分されている。最新活動時期について、北西部では868年(貞観10年)の播磨国地震(兵庫県, 1996)、南西部では約3600年前~6世紀であったと推定されている(兵庫県, 2000)。平均活動間隔は、北西部では約1800~2300年(兵庫県, 1996)、南西部では経験式より3000年程度であったと推定されている。

山崎断層帯は、幅広い破碎帯を有することが知られている。このような断層破碎帯の分布と変動地形の関係を検討した事例は多いとはいえない。筆者らは、断層破碎物質を用いた断層の活動年代の評価手法を検討するため、山崎断層帯を対象にデータ取得のための露頭調査、ピット調査、トレンチ調査を行った。この調査により、山崎断層帯沿いで断層破碎帯および過去の活動に関する情報が得られた。本発表では、これらのうち、安富断層の周辺調査およびトレンチ調査・ピット調査の結果に基づいて、断層破碎帯の分布と変動地形の関係について報告する。

キーワード: 山崎断層帯, 安富断層, 断層破碎帯

Keywords: Yamasaki fault, Yasutomi fault, fault zone